



TMCはパブリックスピーキングを訓練するための非営利教育団体。現在国内で合計55のクラブが登録。詳しくは東さんが在籍の厚木座間TMC (<http://www.geocities.com/Athens/Agora/7456/>)へ。右上の写真はTMCの教材

外資系電子機器メーカー・タイコエレクトロニクスアンプに勤める東公成(41)は仕事上、英語で会議の司会を務める機会が多い。時にはジョークを交え、自由自在に会議をリードする。しかし、ほんの数年前までは、英語の会議に大きなストレスを抱えていた。

だが英語力が不十分だったために、やむを得ずインド人スタッフに司会役を代わってもらっていた。この悔しさが「英語で司会をするスキルを学びたい」という決意につながる。語学学校に体験入学をしたものの、希望のカリキュラムがない。インターネットで偶然見つけたのが、パブリックスピーキングを学ぶ非営利の教育団体「トーストマスターズクラブ」(TMC)だった。2000年8月、自宅近くの厚木座間TMCを見学。「日本人が、英語で、アカデミー賞の司会者のように聴衆を盛り上げている光景が衝撃的だった」と言う。

TMCの集まりは月に2回。司会進行役がいて、会員は様々なテーマや長さのスピーチを順番に披露する。スピーチが終わると評価する役の会員がスピーチと会全体の評価を発表する。役割と仕事内容がルールで決められていて、毎回参加者が分担する。独自の教材に

は、それぞれの役割のうまい進め方やスピーチのテクニックについて詳しく助言が書かれている。

東は早速入会し、半年後、ようやく司会進行のコツをつかんだ。その1つに「人に仕事を分担する時の話し方」がある。「すまないが…」と切り出すのではなく、まず場を和ませ楽しい方向に持っていく。そして、「この仕事をやればこんなメリットがある」とゴールを示す。会議の参加者をその気にさせてから相手に頼む。すると大抵は喜んで引き受けてくれるのだ。東は翌2001年7月、厚木座間TMCの代表に就任。会合のたびに英語でスピーチをして、レッスンで学んだテクニックを実践し、司会進行の腕を磨いていった。現在仕事でも、月に1度米国の担当者や電話会議を行うが、司会はもちろん東だ。会議をうまくコントロールできた時は、心の中でガッツポーズをすと言つ。

クラブに所属し 英語のスピーチ術習得

タイコエレクトロニクスアンプ
情報技術本部課長

東公成

Style

4



Kiminari Azuma

東公成 (あずま・きみなり)+++
1962年北海道生まれ。41歳。2001年に外資系コンピューター会社から、外資系電子機器メーカーのタイコエレクトロニクスアンプに転職。現在は情報システムの構築を手がけ、運用や開発の打ち合わせで米国側の担当者と英語で頻繁にやり取りを行う。